



## INFORMATION

## 安曇野ちひろ美術館は、 2012年4月、開館15周年を迎えます。

安曇野ちひろ美術館は、2012年4月19日をもちまして、開館15周年を迎えることになりました。これも日頃からの皆さまのご支援、ご協力の賜物と、心より感謝いたしております。これからも、より一層充実した美術館活動を目指して参りますので、どうぞよろしくお願いたします。

### ✦ 開館15周年 無料感謝デー ✦ 4月1日(日)

9:00 ~ 17:00 会場：安曇野ちひろ美術館 全館 料金：無料（入館料を含む） 対象：参加自由

特典 1

#### 🎁 先着100名様へプレゼント 🎁

開館15周年記念ポストカード（非売品）をプレゼントします。

特典 2

#### 🎁 1997年生まれの方 先着50名様へプレゼント 🎁

安曇野ちひろ美術館の開館と同じ年、1997年生まれの方（今年15歳になる方）先着50名様に、ちひろグッズをプレゼントします。

#### 👉 入館料無料！

開館15周年の感謝の気持ちをこめて、この日はすべての方の入館料が無料となります。

#### 👉 ワンドリンクサービス！

限定メニューのなかから、お好きなドリンクを1杯サービスします。

#### 👉 青空ライブ 14:00～

青空のもと、公園の芝生でライブを予定しています。（参加自由）

#### 👉 ちひろの水彩技法体験 “にじみのカードづくり”



① 11:00～

参考費：無料

所要時間：約40分

② 13:00～

定員：各回20名

③ 15:00～

申し込み：当日9時から館内にて、申込み受付を開始します。

### ✦ 開館記念日 ✦ 4月19日(木)

9:00 ~ 17:00

この日ご来館のお客様に、開館15周年記念ポストカード（非売品）をプレゼントします。



※イベントの詳細については、ホームページ上でお知らせします。  
<http://www.chihiro.jp/azumino/event/>



<ちひろ展>

## ドキュメンタリー映画公開記念展 ちひろ 27歳の旅立ち

2012年3月1日(木)～5月8日(火)



ちひろ・27歳

I-1, 自画像(27歳) 1946年9月11日  
画家を目指して上京した年に描かれた若き日の自画像。



ちひろ・49歳

I-2, アトリエの自画像(部分) 『わたしのえほん』より 1968年  
絵本画家として活躍してから描かれた唯一の自画像。

～若き日のデッサンから、最後に完成させた絵本『戦火のなかの子どもたち』まで～

### “子ども”を描き続けた絵本画家いわさきちひろの、人生と画業の全貌を一挙公開

絵本画家として活躍したいわさきちひろの初のドキュメンタリー映画が、この夏、公開されます。

両親の出身地・長野県松本市で終戦を迎えたちひろは、翌年の1947年、27歳で画家を目指して上京します。絵本『ひとりのできるよ』で小学館児童文化賞を受賞するなど、名実ともに絵本画家として歩み出した後も、母、妻、娘として家族を支えながら、生涯、“絵本”という表現の可能性を追求し続けました。

本展では、劇場公開に先行し、映画に登場する作品などとともに、ちひろの言葉や各時代のポートレート、資料を展示し、当時のちひろの生活や作品に込めた思いを紹介します。画家として女性としてまっすぐに生きて、ちひろの人生と画業の全貌をご覧ください。

展覧会名：ドキュメンタリー映画公開記念展 ちひろ 27歳の旅立ち

会期：2012年3月1日(木)～5月8日(火)(65日)

○開館時間＝9：00～17：00(ただし4月28日(土)～5月6日(日)は18：00まで)

○休館日＝第2・4水曜日……3月14日・3月28日・4月11日・4月25日(いずれも水曜日)

会場：安曇野ちひろ美術館 展示室1・2

入館料：大人800円／高校生以下無料

※団体(有料入館者20名以上)、65歳以上の方、学生証をお持ちの方は100円引き

※障害者手帳ご提示の方は半額、介添えの方は1名まで無料

※視覚障害のある方は無料

主催：ちひろ美術館



ちひろ・53歳

I-3, わらびを持つ少女  
『あかまんまとうげ』1972年  
心のふるさととして愛した信州・黒姫高原  
に建てた山荘で描かれた作品。



ちひろ・49歳

I-4, カーテンにかくれる少女 『あめのひのおるすばん』より 1968年  
 “絵本にしかできないこと”を目指し、画家としての飛躍を試みた、至光社の絵本シリーズの1作目。



ちひろ・53歳

I-5, 雨のなかにするる少女  
 『戦火のなかの子どもたち』より 1972年  
 平和への祈りを込めてベトナム戦時下の子どもたちを描いた、画業の集大成ともいえる絵本。

展覧会の見どころ： 27歳で上京後、新聞記者をしながら絵の修練に励んでいた時代のデッサンから、絵と言葉とが調和した新しい絵本表現を求めて試行錯誤を繰り返した至光社の絵本シリーズ、ベトナム戦争への反戦の思いを込めて描いた最晩年の絵本『戦火のなかの子どもたち』まで、ちひろの画業をたどりながら、代表作を多数展示します。

自伝的絵本『わたしのえほん』の全場面を出品。また、各年代のちひろのポートレートや夫への思いを書きつづった日記、結婚誓約書などの資料とともに展示し、絵が好きだった少女時代から、大家族を支える多忙な生活を過ごした晩年までの、一人の女性としてのちひろの人生を浮き彫りにします。

画家プロフィール：



1973年(54歳)

## いわさき ちひろ chihiro Iwasaki 日本 1918～1974

福井県武生市（現・越前市）に生まれ、東京で育つ。東京府立第六高等女学校卒。藤原行成流の書を学び、絵は岡田三郎助、中谷泰、丸木俊に師事。1946年日本共産党に入党。1949年、紙芝居『お母さんの話』を出版、翌年文部大臣賞受賞。1950年松本善明と結婚、翌年長男猛を産む。1952年、下石神井（東京・練馬）に自宅兼アトリエを建てる。1956年小学館児童文化賞、1961年産経児童出版文化賞、1973年『ことりのくるひ』（至光社）でポーロニャ国際児童図書展グラフィック賞等を受賞。1974年肝ガンのため死去。享年55歳。現存する作品は9400点を超える。その他の代表作に『おふろでちゃぶちゃぶ』（童心社）、『あめのひのおるすばん』（至光社）、『戦火のなかの子どもたち』（岩崎書店）などがある。

展示品数： 約70点

主な出展作品：	わらびを持つ少女(1972年)	『となりにきたこ』(1970年 至光社)
	お姉さんとあかちゃん(1971年)	『ことりのくるひ』(1971年 至光社)
	ききょうと子どもたち(1967年)	『戦火のなかの子どもたち』(1972/1973年 岩崎書店)
	海辺の小鳥(1972年)	
	『ひとりできるよ』(1956年 福音館書店)	『わたしのえほん』(1968年 みどり書房 改訂版:1978年 新日本出版社)
	『あめのひのおるすばん』(1968年 至光社)	

関連イベント： ギャラリートーク

展示室で作品を見ながら、担当学芸員が展覧会の見どころなどをお話します。  
 日時：2012年3月10日（土）・3月24日（土）・4月14日（土）・4月28日（土）  
 いずれも14：00～14：30  
 会場：安曇野ちひろ美術館 展示室1 料金：無料（入館料のみ） 対象：参加自由

関連展示： 「ドキュメンタリー映画公開記念展 いわさきちひろ（仮）」ちひろ美術館・東京  
 会期：2012年5月23日（水）～8月26日（日）



アトリエで電話をとるちひろ 1963年(44歳)

## 関連情報

## いわさきちひろ、初のドキュメンタリー映画を2012年7月に公開します。

いわさきちひろの知られざる生涯と自立の物語を、はじめて映像化しました。生前のちひろを知る人々の証言の数々、ちひろの残した言葉、ふんだんに盛り込まれた絵や資料……。みどころがたくさんです。

## 特別試写会

2012年4月25日(水)  
14:00～(予定)

会場：すずの音ホール(松川村)

全国公開に先駆けて、長野県でのプレス向け特別試写会を行います。

映画監督の海南友子さんによるトークイベントも予定。詳細が決まり次第、ご案内します。

ちひろ美術館・東京開館35周年記念 安曇野ちひろ美術館開館15周年記念

## 【ドキュメンタリー映画 いわさきちひろ(仮題)概要】

- 公開：2012年7月 ヒューマンラストシネマ有楽町ほか ※長野県内の劇場でも順次上映 ■監督：海南友子(『ビューティフル アイランズ ～気候変動 沈む島の記憶～』) ■エグゼクティブプロデューサー：山田洋次(映画監督・財団法人いわさきちひろ記念事業団理事長) ■ナレーション：檀れい(俳優)、加賀美幸子(元NHKアナウンサー) ■主題歌：『MY LOVE』平原綾香 ■製作：ホライズン・フィーチャーズ ■特別協力：財団法人いわさきちひろ記念事業団 ■配給：株式会社クレストインターナショナル
- 公式サイト URL：<http://kanatomoko.jp/chihiro/>

<海南友子監督プロフィール> 元NHKディレクター。2007年サンダンスNHK国際映像作家賞受賞。2009年『ビューティフルアイランズ～気候変動 沈む島の記憶～』で釜山国際映画祭アジア映画基金AND賞受賞。2011年末に男児出産。

## 同時開催

東京開館35周年／安曇野開館15周年記念

## ピエゾグラフィによる「わたしのちひろ」展



I-6, チューリップのなかのあかちゃん 1971年

※「ピエゾグラフィ」とは……ちひろ美術館では、現時点でのいわさきちひろの作品の色合いや風合いをデジタル情報として保存し、最新技術の「ピエゾグラフィ」という方法によるデジタルアーカイブと「ピエゾグラフィ作品」としての複製に取り組んでいます。

2012年3月1日(木)～5月8日(火)  
安曇野ちひろ美術館 多目的ギャラリー

皆さんの思いが集まってできた、いわさきちひろの展覧会です。

2012年春、ちひろ美術館(東京・安曇野)で開催する、ピエゾグラフィによる「わたしのちひろ」展は、皆さまからのリクエストで展示作品が決まる、参加型の展覧会です。リクエストが多かった作品はもちろん、深い思いのこもったメッセージが寄せられた作品を展示します。地域の方々や近隣の小中学生をはじめ、多くの方からのメッセージとともに、ちひろの絵をお楽しみください。

※リクエストメッセージの事前受付は、2012年2月3日(金)をもって終了しました。たくさんのご応募、誠にありがとうございました。会期中にも、会場内のリクエストコーナーでメッセージを募集します。

## 展覧会の見どころ

ちひろ作品のリクエスト型の展覧会は、2004年にちひろ美術館両館でスタートして以来、全国13ヶ所の会場で行われてきました。リクエスト総数は2万9000通を超えています。今回は、2004年以來のちひろ美術館での開催となります。

会場内に、皆さまからのリクエストの多い、人気作品や代表作が勢ぞろいします。

作品と一緒に展示されるメッセージには、その方の人生の大切な思い出やエピソードが綴られています。共感したり、勇気もらったり。メッセージと作品と一緒にご覧いただくことで、ちひろの絵の魅力を新たに感じていただける展覧会です。

## 展示品数

約30点

## 関連展示

ちひろ美術館・東京 2012年3月1日(木)～5月20日(日)

東京開館35周年／安曇野開館15周年記念 ピエゾグラフィによる「わたしのちひろ」展

安曇野ちひろ美術館 3/3

<http://www.chihiro.jp/>

お問い合わせ

安曇野ちひろ美術館 広報担当 入口・松本・奥原  
〒399-8501 長野県北安曇郡松川村西原 3358-24  
TEL.0261-62-0772 FAX 0261-62-0774  
E-mail:apublicity@chihiro.or.jp



&lt;企画展&gt;

**瀬川康男 遺作展 —輝くいのち—**

2012年3月1日(木)～5月8日(火)



II-1, 瀬川康男『かっぱかぞえうた』(福音館書店)より 1993年

**信州に暮らした絵本界の鬼才・瀬川康男の大規模な遺作展**

日本を代表する絵本画家・瀬川康男が2010年2月、惜しまれつつ77歳で亡くなりました。

13歳で画家となることを決意し、古今東西の美術に学びつつ画風を大きく変貌させてきた瀬川は、第1回ブラティスラヴァ世界絵本原画展(BIB)グランプリを受賞して国際的に注目を集めるようになってからも、絵本とタブローの領域を越えて独自の絵画表現を追求しました。1977年に東京から信州に居を移してからは、植物や虫など生を営むあらゆるものの「いのち」に向き合い、その根源にまで迫ろうと描き続けました。

本展では、代表的な絵本の原画のほか、タブローや版画、手描き本など約140点を展示し、絵本界の鬼才・瀬川康男の画業と人生を紹介します。

---

展覧会名： <企画展>瀬川康男遺作展 —輝くいのち—

---

会期： 2012年3月1日(木)～5月8日(火) (65日)

○開館時間=9:00～17:00 (ただし4月28日(土)～5月6日(日)は18:00まで)

○休館日=第2・4水曜日……3月14日・3月28日・4月11日・4月25日(いずれも水曜日)

---

会場： 安曇野ちひろ美術館 展示室4

---

入館料： 大人 800円 / 高校生以下無料

※団体 (有料入館者20名以上)、65歳以上の方、学生証をお持ちの方は100円引き

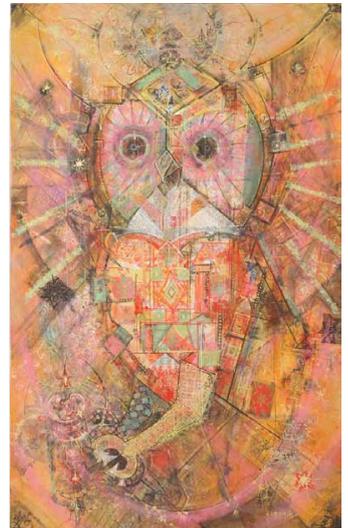
※障害者手帳ご提示の方は半額、介添えの方は1名まで無料

※視覚障害のある方は無料

---

主催： ちひろ美術館

---



II-2, 瀬川康男 桃色のふくろう 2005年

展覧会の見どころ： 第1回 BIB グランプリを受賞して日本の絵本を世界に知らしめ、400万部を超す日本一のミリオンセラー絵本『いないいないばあ』に絵を描いた、日本を代表する絵本画家・瀬川康男の人生と画業を紹介。最晩年の画室の様子を紹介するコーナーや、愛用の画材なども展示します。

瀬川は、30年以上を信州（北軽井沢および小県郡青木村）で暮らし、その自然に触発されて、草花や虫など生を営むあらゆるものの絵や絵本を描いた、まさに信州ゆかりの画家です。信州で描かれた絵本『ぼうし』『虫のわらべうた』なども多数紹介します。

2004年に描かれた最後の絵本『ひな』『ひなとてんぐ』など、2011年にちひろ美術館・東京で開催された遺作展では出品されなかった絵本やタブローも展示します。

画家プロフィール：



**瀬川 康男** Yasuo Segawa 日本 1932～2010

1932年愛知県岡崎市生まれ。13歳より日本画を学び、17歳で油絵を始める。1960年、初めての絵本『きつねのよめいり』を出版。1967年『ふしぎなたけのこ』で第1回 BIB グランプリ、1968年『やまんばのにしき』で小学館絵画賞、1987年『ぼうし』で絵本につばんだ賞、講談社出版文化賞絵本賞、1988年国際アンデルセン賞画家賞次席、1989年『清盛』で BIB 金のりんご賞、1992年『絵巻平家物語（全9巻）』で産経児童出版文化賞大賞など、国内外の受賞多数。1977年より信州に住み、絵本と並行してタブローの制作も続けた。

展示品数： 約 140 点

主な出展作品： 『いないいないばあ』(1967年 童心社)	『ぼうし』(1983/1987年 福音館書店)	『ちよつときて』(1996年 小学館)
『さいのかわら地蔵和讃』(1973年 文化出版局)	『虫のわらべうた』(1986年 福音館書店)	『ひな』(2004年 童心社)
『ふたり』(1981年 富山房)	『かっぱかぞえうた』(1993年 福音館書店)	桃色のふくろう(2005年)

関連イベント： ギャラリートーク

展示室で作品を見ながら、担当学芸員が展覧会の見どころなどをお話します。

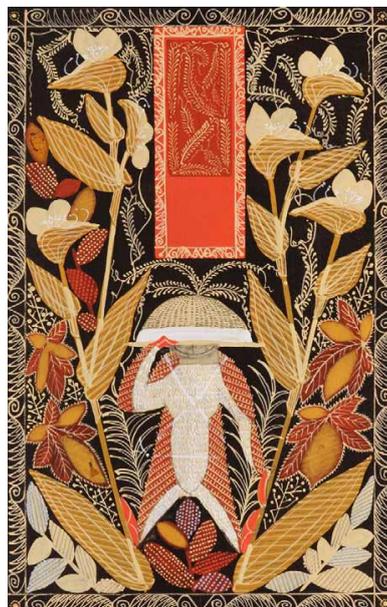
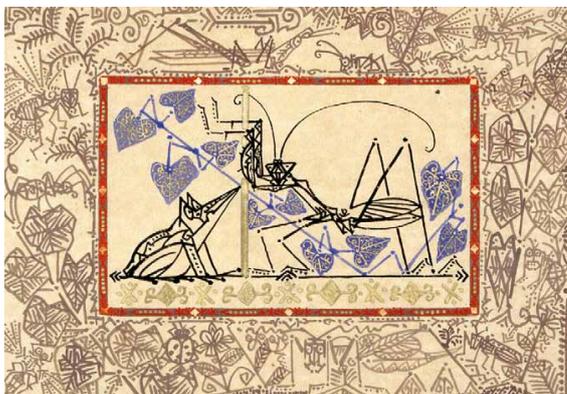
日時：2012年3月10日（土）・3月24日（土）・4月14日（土）・4月28日（土）いずれも14:30～15:00

会場：安曇野ちひろ美術館 展示室4 料金：無料（入館料のみ） 対象：参加自由

関連書籍： 『瀬川康男画集 いきとしいけるもの』（既刊） 瀬川康男・絵 講談社・編 2011年7月27日発売 定価 3200円＋税

関連展示： 「瀬川康男遺作展 ―輝くいのち―」 ちひろ美術館・東京（2011年8月3日～10月23日） \*終了しました。

図版について： 本リリースに掲載されている図版データを、プレス貸し出し用にご用意しています。ご希望の方は、別紙「プレス用作品画像データ借用申込書」をご覧ください。



(左上)II-3, 瀬川康男『虫のわらべうた』（福音館書店）より 1986年

(右上)II-4, 瀬川康男『ぼうし』（福音館書店）より 1987年

(左下)II-5, 瀬川康男『ひな』（童心社）より 2004年